



広島大学病院 ニュース

第6号
2005年12月

HIROSHIMA UNIVERSITY HOSPITAL
MEDICAL-DENTAL LIAISON NEWS

広島大学病院の理念

わたし達は、国民の健康と福祉の向上のために、
次の理念を掲げています。

患者さま中心の全人的医療を行います。

優れた医療人を育成します。

新しい医療を開発します。





事務職員の意識改革に向けて

運営支援部長 西田 良一



平成17年10月1日に、病院運営支援部長を拝命いたしました。浅原病院長を支え、精一杯尽力する所存です。

いうまでもなく、広島大学病院は、この地域における中核的医療機関であるだけでなく、医療人育成や新しい医療開発という大きな役割をも担っており、このことは本院を取り囲む環境などがどのように変化しても、普遍のものであると考えております。

つまり、平成16年4月に国立大学は法人化され、国立大学法人として生まれ変わり、我々病院内部の者や広島大学関係者にとって、まさに大変革であったわけですが、視点を変えて見ると入院中の方々や日々本院を受診される患者の方々にとって、このことを感じる瞬間はなかったはずです。

法人化から早くも一年半が経過いたしました。本院では病院長が弓削医療担当副学長との連携により、法人化のメリットを生かし、患者の方々の目線に立った、様々な取組をされており、徐々にその成果は現れてきていると思います。しかし一方で、地域社会の方々が持つておられる大学病院に対するイメージは、必ずしも良いものとは言えないのが現状だと思います。

このようなイメージは、実際過去に気まずい経験をしたとか、人から伝え聞いた噂から生じたものもあると思いますが、その責任の一端は、私を含めた我々事務職員にあると思います。本院に来られた方が、通常最初に接するのは多くの場合我々事務職員だからです。

確かに、直接医療に携わるのは、医師、歯科医師、看護師、薬剤師等々の人達かも知れませんが、対外的には当然院内全ての部署の事務職員も医療従事者であるということを忘れないでほしいものです。

また、前述したように本院が法人化によって多くの問題を抱えることとなったとしても、それは内部の問題であり部外者には全く関係ないことなのです。我々事務職員も常に以上のことを念頭に、自問自答し、自らを律するような意識改革を行っていかねばなりません。広島大学病院は素晴らしい病院になったと、皆様と言われるような日が一日も早く訪れることを願っております。

この目標に向け、頑張りたいと思っておりますので、皆様のご支援とご協力を何卒宜しくお願いいたします。



カット：波田真知子



脳神経内科ってどんな診療科?

脳神経内科科長 松本 昌泰

ただいま
脱皮成長中!



脳神経内科では神経内科疾患を主体に診療します。といっても、神経内科疾患ってどんな病気と、よくわからない方も多いかもしれません。広島県の総合病院でもこれまで神経内科疾患を専門にみる内科医がいる病院が少なかったため無理もありません。多くの欧米の総合病院では神経内科専門医のいない病院は無く、最も古くからある診療科なのですが、我が国では比較的歴史が浅く、一般の方に今なお十分に理解されていない現状にあります。

では神経内科疾患にはどのような病気が含まれるのでしょうか。代表的なものは、脳梗塞、脳出血などの脳血管障害、脳血管性認知症（旧痴呆症）やアルツハイマー病などの老年性認知症、てんかん、頭痛、パーキンソン病、脳腫瘍、髄膜脳炎、脊髄小脳変性症、ジストニーやミオクローヌスなどの不随意運動疾患、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、脊髄の各種の病気や糖尿病などの色々な原因で発症する末梢神経の病気、重症筋無力症や多発性筋炎などの筋肉疾患などまで数多くの病気が含まれています。つまり、きわめて頻度の高い病気から頻度は低い難治性の多くの神経難病までを対象とする診療科です。

このため、ニーズも高く欧米の総合病院では最も大きな診療科の一つとなっており、例えば世界でも有数の病院である米国のメイヨークリニック（外来だけで20階建て）でも最大の診療科は神経内科です。当科はこのような診療科をめざして脱皮成長中です。

どんな症状があったら?

神経内科疾患の症状には「頭痛」「めまい」「しびれ」「脱力」「ふるえ」「こわばり」「ふらつき」「けいれん」などがあり、このような症状が当科受診のきっかけとなります。このような症状があれば早めの受診が必要です。

「転ばぬ先の杖」→「脳の健康外来」

脳卒中や認知症などの神経内科疾患の予防・診断・治療法は急速に進歩しています。なかでも予防は大切で、このような病気にならないための指導は「脳の健康外来」が担っています。症状がなくても、高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満、高齢などの危険因子があって心配な方はご遠慮なく受診ください。

「未来への挑戦にもご協力を!」→ J-STARSの推進

当科では日本全国の脳卒中専門医のいる135施設のご協力を得て、厚生科学研究としてJ-STARSという医師主導の大型臨床試験を推進しています。この研究により、脳梗塞の再発予防にスタチンという高脂血症の治療薬が有効かどうかの答えが得られることが期待されます。詳しくは、ご遠慮なく当科のスタッフにお尋ねください。

SOS!「時は脳なり!」→ 「脳卒中がなおる?!」

平成17年10月11日にアルテプラゼという血栓溶解薬が脳梗塞の超急性期(発症後3時間以内)の治療法として使用可能となりました。ただし、この治療を安全に進めるためには、脳外科や放射線科のスタッフと共同で急性期脳卒中専門医療チームの編成対応が不可欠であり、当科でもNCCT (Neuro-Critical-Care Team) という神経救急対応チームを既に編成し、準備を進めています。

「暖かい心のネットワークを!」→ CIDC難病対策センター

神経疾患では筋萎縮性側索硬化症 (ALS) などの多くの難病があり、これらの疾患への福祉支援体制の充実が欠かせません。このため、当科が窓口となり、県や市の受託事業として平成16年度よりCIDC難病対策センターを立ち上げ、小児科学教室とも共同で運営しています。



ホームページ (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/naika3/>) 参照



安心・安全な歯科診療を 障害者一人ひとりの方に

障害者歯科では年齢、障害の種類や程度は問わず、障害のある方の歯科疾患に関する相談と予防、治療や口腔健康管理を行っています。また、歯磨きをはじめとした口腔ケアを通じて、歯科疾患の予防と健康管理について「自立」することを第一に考え、歯科的見地から患者（児）さまのQOL（クオリティーオブライフ）が向上するよう支援させていただいています。また、患者（児）さまの歯科診療に携わる広島大学病院や大学以外の様々な施設や人との交流・協調を計りながら患者（児）さまの健康増進に貢献するとともに、福祉・医療に従事する人材の育成に努めています。

当科では以下のような方針で診療を行っています。

1. 医学・歯学的根拠に基づいてむし歯や歯周病の検査と診断・診療計画を立てています。
2. 安全・安心な患者（児）さまの歯科診療を行っています。
3. 患者（児）さまの身体状態、精神状態を考慮しながら歯科診療を行っています。
4. 歯磨き指導をはじめとしたむし歯と歯周病の予防を行っています。
5. 定期健診を取り入れたお口の健康管理を行っています。



安心・安全が第一、 無理な治療は しません

診療中は患者さんの表情、体の動き、声の調子を注視しながら無痛処置を心がけています。また、病気の内容、薬の服用状況等を医科と確認し、治療に対する協力度などを総合的に判断して進めています。

岡田診療科長

患者さまの気持ちを 和らげるのは看護師 の務め

初診の面接から患者さんの状況を見て、できるだけ緊張がほぐれるよう心がけています。歯科治療をなかなか受け入れてくれない方には慣れるためのトレーニングを患者さま、ご家族の方と一緒にしています。

中森看護師

お口の健康維持・ 増進は家庭から

歯磨きの方法をはじめとしてお口を開けてくれないときにうまく開けてもらう方法や歯ブラシの選び方、食生活やおやつ、飲み物の摂り方などをお話しています。

時数衛生士、矢野衛生士



月平均400名の患者さんが来院されています。障害も多岐にわたり様々です。しかし、障害者歯科の目的はノーマライゼーション。どの歯科医院でも治療が受けられるようになることが理想です。

前列左から玉川（医員）、岡田（助教授）、神田（助手）、
後列左から衛生士学校2年、矢野（衛生士）、
時数（衛生士）、中森（看護師）、衛生士学校2年



医療安全管理部の紹介

医療安全管理部組織図

病院長

医療安全管理部長

医療安全管理室

リスクマネジャー

感染管理室

I C T

リンクナース
感染対策実践者



手洗い実習



グリッターバッグによる
洗い残しチェック



研修会「危険予知訓練の実際」



インシデントレポート
から学ぶKYTの実際



医療事故防止のための大学間相互チェック



「医療安全管理部」は平成14年4月から病院長直属の部署として位置づけられ、業務を開始しました。平成16年4月には組織の再構築が行われ、「医療安全管理室」と「感染管理室」が設置されました。

「医療安全管理室」は、ハインリッヒの法則（一つの重大な事故の陰には29の軽微な事故があり、その下には300のヒヤリとしたことが隠れている）のもとに、'ヒヤリハットしたことを皆で共有する'、'人間であれば誰でもエラーをおかす'という事実、つまり自分が起こした過ちは誰もが起こし得ることとして「インシデントレポート」を提出し、些細なミスから重大な事故を組織的に防止し、患者さまへ安全な医療を提供することを目的として活動しています。発生した事象に対しては、医療安全管理部長、専任リスクマネジャーを中心に各部門からのリスクマネジャー（医師、看護師、他コ・メディカル、事務部）によるチェックが機能する体制を整備しています。

「感染管理室」は病院内における感染対策の推進、啓発のための企画・立案および評価を行うとともに、医療現場において機能的に対処・指導を行い、病院内の感染に関する対策と意識の向上をはかることを目的として、感染管理室長と専任感染対策担当者を中心に、I C T (Infection Control Team) による定期的な巡視、リンクナース・感染対策実践者による医療現場での実践活動を組織的に行っています。

外部評価としては、毎年大学間相互チェックが行われ、他大学からの医療安全管理活動の指摘事項は改善の指標ともなっています。

歯科衛生士外来センター

健康美をあなたに
お口からはじめるハイクオリティライフ

歯科衛生士業務のひとつである歯科予防処置を積極的に行い、患者さまにより高度なプロフェッショナルケアを提供いたします。

「生活習慣病（歯科）予防」「口腔リハビリテーション」「歯科エステ」などのコースを用意し、患者様のお口の健康を維持するためのお手伝いをいたします。

また入院中、手術前後に患者様の口腔ケアを行います。



歯科衛生士によるプロフェッショナルケア



PMTC（ピーエムティーシー）
(Professional Mechanical Tooth Cleaning)
歯科衛生士が専用の器具を使用し、専門的な技術により、歯の表面に付着したバイオフィルム（細菌の巣）を除去します。ツルツルの歯面を回復させることによりプラーク（歯垢）の再付着を防ぎ、むし歯や歯周病になりにくい環境を作ります。



デンタルマニキュア
爪に塗るマニキュアと同じオシャレ感覚で手軽に行えます。特殊な白いコーティング材を歯面に塗布することにより、歯を削ることなく即日思いのままの白さを暫時的に実現することができます。



3DS専用マウスピース

3DS（スリーディーエス）
(Dental Drug Delivery System)
PMTCを行った後、患者様別に作成した専用マウスピースを使用し、フッ化物を含む抗菌剤を歯面に保持させミュータンス菌（むし歯菌）を排除し、虫歯になりにくい強い歯を作ります。

料金表

(消費税込み)

診断料（歯科医師による）	¥2,700
むし歯リスク検査	¥2,100
PMTC	¥5,100
3DS	¥7,000
3DS追加トレー作成	¥3,900
デンタルマニキュア（2本あたり）	¥3,400
機械的歯面清掃（沈着物除去）	¥2,630
口腔衛生指導料	¥3,965
刷牙指導料（歯みがき指導）	¥3,670
歯面塗布（フッ化物など）	¥2,585

（すべて自費診療となります。）

歯科衛生士外来センター

初診 月曜日～金曜日 9:00～11:00
再診 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～16:00
お問い合わせ 082-257-5752

病理部ってどんなところ？

『病理診断』ってなあに？



病理部では患者さんの体の一部から採取された病変の組織や細胞から顕微鏡用のガラス標本を作ります。この標本を顕微鏡で観察して診断するのが病理診断です。そして、この病理診断を専門とする医師が病理医です。主治医は病理診断に基づいて治療方針を決めます。今まで病理医は患者さんと直接接する機会が少なかったのですが、今後は必要であれば主治医と相談の上患者さんに直接病理診断の説明をする場合が増えるかもしれません。



図1. 病理医は毎日膨大な枚数の標本を観察し、病理診断を付けています。

図2.
55歳の女性に発生した大腸癌です。筒状の大腸を開いてみると、大腸の中に通り道が殆どないほど癌が広がっていました(→)。病理医はこの大腸癌の顕微鏡標本を観察し、癌の進行の程度を診断します。それに基づいて主治医は化学療法などの追加治療を行います。



図3.
生後2カ月の乳児のふくらはぎに発生した“線維肉腫”と呼ばれる稀ながんです(→)。このがんは完全に取りきれると再発する可能性はとても低いので、切除断端(▽)にがんが残っていないことを顕微鏡標本で確認することがとても重要です。

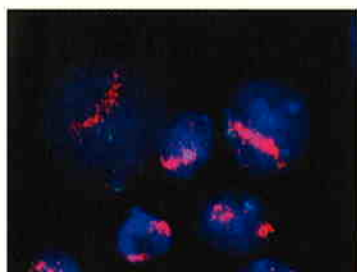


図5. 乳癌細胞の中でオレンジ色に光るHER2という癌遺伝子が増えていることがわかります。このような乳癌にはハーセプチンというお薬がよく効きます。この検査によって効果が期待できる患者さんだけにハーセプチンを投与することができます。



図4. 病理部には少人数ではありますが、臨床検査技師もいて様々な業務を行っています。写真は蛍光顕微鏡を使って乳癌細胞の遺伝子増幅検査を行っているところです。

病理診断には以下のような種類があります。

細胞診断

生検診断

手術で切除された臓器の診断

手術中の迅速診断

病理解剖

現在、このような病理診断の需要は増える一方にもかかわらず、病理医のいない病院も少なくありません。今後、私たちは受託検査として広島大学病院以外の病院での手術中迅速診断などをお引き受けして、広島地域の医療のためにもお役に立ちたいと考えています。

「医療と芸術」展を終えて

手取実咲

私は、『医療と芸術』展開催にあたり「生きる力」というテーマを受けて制作した作品があります。題名は「Today」といいます。

自分にとって現在の制作活動は芸術といえるのだろうか？
もしかすると日記の様なものといえるのかもしれない。
自分のココロを治療するアートセラピーとでもいうのだろうか。
という印象を形にした、カーテン状の作品です。



「医療」も「芸術」も人間社会の中で存在し、私達は1人では生きて行けません。
そんな当たり前の日常も、突然起こる非日常も、どんな事も空間も対人間関係なのだ実感しています。
そして私は一番身近な人間関係「家族」をテーマとしました。

「家族」とは特別な存在ではなく日常です。しかし、最も特別な存在なのです。
誰にでもいつの時代でも家族は存在し、それは本当に小さな社会の様に私達を包み、励まし、時には突き放され、深く大きく成長させてくれます。

「医療」と「芸術」は、家族の様に私達を支えてくれる存在ではないかと感じます。

今回はカーテンという日常当たり前にある形で展示をしたので、中には作品とは気付かない方もいらっしゃいました。

また、病院という空間の中に普段存在しない作品が存在する事で違和感を強く感じた方もいらっしゃった様です。しかし、何かを感じるという気持ちが大切に、それが自分を作り、人との繋がりを作り、そして「生きる力」へと繋がるのではないかと私は強く感じました。

これらかも家族を大切にしていきたいです。
この気持ちは「医療」のあり方や「芸術」の存在を今後も問い続けるという事かもしれません。

「医療と芸術」展

MEDICAL TREATMENT AND ART

会期 平成17年9月2日(金)~30日(金)

会場 広島大学病院、医学資料館等霞キャンパス一帯(広島市南区霞1-2-3)

主催 広島大学病院「医療と芸術」展実行委員会



広島大学病院のホームページのご紹介

分かりやすく見やすいページづくりを心がけていこうと思っておりますので、引き続きご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

■ご意見やご感想を下記へお願いいたします。

広島大学病院 広報委員会(総務グループ広報担当)

〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号

Tel 082-257-5555 Fax 082-257-5087

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/index.html>